

単元の
主張

「C 変化と関係」の領域における資質・能力は、「伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴をみいだして、二つの数量関係を表や式を用いて考察する力」であり、「関数の考え」につながる単元である。本単元の学習内容が5・6年生の比例や反比例を経て、やがて中学校での「関数」へとつながる。本単元では、「伴って変わる二つの数量やそれらの関係」について実際の操作活動の中で変化する数に着目したり、表に表し観察を行うことで「変わる数」や「変わらない数」などの「数量」に着目して数を捉えたりして児童が数を相対的に捉える素地を育てるようにしたい。また、導入の段階で身近なさいころなどを取り扱うことで算数に苦手な思いをもっている児童も取り組みやすくしたい。

1. 単元デザイン

| ① (本時) | ② | ③・④ | ⑤ |
|--|---|--|--|
| 伴って変わる2量の関係に気がつき、学習の見通しをもつ(和が一定) | 伴って変わる2量の関係を調べる。(差が一定) | 伴って変わる2量の関係を調べる。(商が一定) | 伴って変わる2量の関係のものを身の回りから探し出し、関係について考察を行う。 |
| <ul style="list-style-type: none"> さいころを観察しの数と表と裏の数の「二つの数」に着目し、二つの数の合計をもとに法則を考える。 正二十面体のさいころの表と裏の数について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 一辺1cmの正三角形を横に並べていく場合の三角形の数と周りの長さの関係を考える。 表に整理し、関係性をつかみ、式に表す。 | <ul style="list-style-type: none"> 棒を使い三角形を横に並べていく場合の三角形の数と棒の本数との関係を捉える。 表にして考えたり、式に表して考えたりする。 四角形の場合についても考える。 四角形を階段状に積み重ねていく場合の段の数と棒の本数との関係を捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や経験をいかし、身の回りの図形や数から2量の関係のものを身の回りから探し出し、表や式に表し関係について考察を行う。 |

2. 単元で育成する資質・能力

| | | |
|---|--|--|
| <p>① 生きて働く「知識・技能」 (ア) 変化の様子や式、折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。</p> <p>伴って変わる二つの数量の関係は、□、△などを用いて式に表すことができる場合がある。ここで扱う□、△などの記号は、変量を表す記号である。第4学年では具体的な問題場面において、表から変化の様子を□、△などを用いた式に表したり表された式から、数量の関係の特徴を読みとったりすることができるようにする。式から数量の対応や変化の特徴を読みとるには、□、△などの複数の数を当てはめた結果を表に整理して表したり、二つの数量の関係を言葉の式などで表したりすることが大切であるため、そのような活動が行えるように配慮する必要がある。</p> <p>また、子どもたちが二つの量に注目できるようにするために簡単な数から取り組んでいくことも大切だと考える。そこで、導入の段階で身近なさいころなどを取り扱うことで算数に苦手な思いをもっている児童も取り組みやすくする。</p> | <p>② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」 (ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察すること。</p> <p>子どもたちが関数の考えに触れる最初の単元である。「関数の考え」に大切な一つの数だけでなく他の数と比べる活動を通して、数量に対する規則性や関係を見つけていくことが必要である。その際には、表に整理して数同士の関係を捉えたり、全体的に規則性が成り立つかどうかを予測し、確かめたりしていくことも大切である。また、式化することで見つけた規則が他の場合にも通用するかどうか確かめることも大切である。そのためにも、子どもが目にした数の規則性や特徴に目を向けやすいようにするために、簡単な数や身近なさいころなどを取り扱うことで算数に苦手な意識をもつ子どもにも取り組みやすいようにする。</p> | <p>③ 学びを人生や社会に生かそうとする 「学びに向かう力・人間性等」</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え、検討してより良いものを求めて粘り強く考える。 数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする。 <p>関数の考えでは、数量同士を比較したり、整理したりして関係の規則性や結果を見いだすことが大切である。規則性を捉えるには、適切な数値を選び関係性が成り立つ筋道立てて考えていくことが必要である。規則性を見いだすために物事をよく観察したり、比較したりしていくことも大切である。関係性を捉え式化するだけでなく、式の表したものが本当に適切であるかどうか確かめようとすることも大切である。また、式に表すことで、どのような場合でも式にして表すことで、どのような数でも結果を求めることができるということを感じるようにする。</p> |
|---|--|--|

3. 単元に関わる内容と見方・考え方の系統

| C「変化と関係」領域 C(1) 伴って変わる二つの数量 | | | | | | | |
|-----------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|---|------------------------|---|--|---|
| 学年 | 3年(A数と計算) | 4年 | 5年 | 6年 | 中学1年生 | 中学2年生 | 中学3年生 |
| 内容 | ・かけ算 | ・折れ線グラフ ・整理の仕方 | ・比例 ・四角形と三角形の面積 ・正多角形と円周の長さ | ・比 ・比例と反比例 ・場合の数 | ・文字と式 ・比例と反比例 | ・連立方程式 ・一次関数 | ・関数 |
| 関数をとらえる見方 | ・乗数の増減と積の変化の規則性 | 伴って変わる2つの数量の存在と変化の特徴 | ・簡単な比例の意味 ・平行四辺形の底辺と面積の関係とその代わり方 ・円の直径と円周の関係とその代わり方 | ・比の意味、表し方 ・比例の意味と特徴 | ・変化、変域、以下、以上、未満の意味 ・比例の意味・座標の意味 ・反比例の意味 | ・1次関数の比例と1次関数の関係 ・変化の割合の意味 ・2元1次方程式のグラフとその意味 | ・関数 $y = ax$ の意味 ・グラフの特徴 ・関数 $y = ax^2$ の変化の割合の意味 |
| 考え方 | ・答えが同じになるかけ算は、1方が決まれば、もう1方の数も決まること | ・2つの数量の関係を折れ線グラフに表したり、特徴を読んだりすること | ・伴って変わる2つの数量の関係の特徴を見いだしたり、その関係を式や表で表したりすること | | | | |

4. 本時について

本時目標 伴って変わる二つの数量を表に表し、規則性見つけ式に表わしたり、式と表を照らし合わせたりして関係をとらえることができる。

○本時の主旨

子どもたちに身近なさいころを導入で扱うことで問題場面をとらえやすくする。また、簡単な数を表に表すことで関係性を見出しやすくする。見つけた関係性を式にし、表と照らし合わせることで見つけた関係性の確認を行う。また、他の場面でも二つの数から関係性を見出せるようにする。

1 本時の課題を考える。

○さいころを観察することを通して、さいころの数の配置の法則性に目を向ける。
さいころの観察から数の配置の関係について表に整理して考えることを知る。
表と裏の数、数の合計を書きだした表から表と裏の合計が必ず7になっていることを見出す。

2 表から関係性を式に表わし、式がどんな場合でも成り立つか表と照らし合わせる。

○表に表した結果を考察し、関係性を式化し、式がどんな場合でも成り立つか表と照らし合わせる。
表に表した数字を観察し、規則性をとらえ、式化を行う。また、式化したものが本当に成り立つかどうか表の数字と照らし合わせて検証を行う。

3 見つけたきまりを使って、他の場合でも関係性を見つけ、式にできるか考える。

○正二十面体のさいころを作る場合、裏と表の数についてきまりが見つけられるか、また、式に表せることができるか考える。
正二十面体のさいころを作る場合、正六面体の数のきまりを見つけた経験をいかして、表と裏の数の組み合わせを見つけ、式化を行う。

本時における 知識・技能 : 伴って変わる2量の関係を図や表から変化の特徴を読みとり、式に表す。
思考・判断・表現 : 伴って変わる2量の関係を図や表から変化の特徴を読みとり、関係性を式などで表現する。
学びに向かう力 : 表に表したことを観察し、式などを使い数量関係を簡潔に表そうとする。また、学習経験を他の問題の解決にいかす。

見方：着眼点 …… 表と2量の関係を表した式


考え方：思考・認知、表現方法 …… 表をもとにして2量を比較すること。関係を式で表現し、他の場面に生かすこと。



見方・考え方の成長 表を見て、関係性をとらえたり、式に表わしたりする。また、それをいかして、他の場面にあてはめて課題解決の見通しをもつ。

5. 授業記録

| 教師の発問 | 児童の反応 |
|---|-----------------------------|
| 1 本時の課題を考える。 | |
| T1 今日から新しい単元に入ります みんなに考えて欲しいのはこれなんですよ (さいころを出す) | C1 えっ C2 何? C3 さいころ? |
| T2 そう。さいころなんです。 | |
| T3 じゃあノートに書いてください。 (「さいころを作ろう」と板書) | C4 今日は簡単だぞ C5 先生図工なんですか? |
| T4 さいころを作ろうと思って、ここまで作ったんだけど (立方体を見せる。) | |
| T5 まず、さいころについて知っていることを教えてほしいんだけど。 | C6 裏と表で合計が7 C7 言われたー |
| T6 どんどん知っていること教えてほしいんだけど | C8 面が1, 2, 3, 4, ... 6 6つある |
| T7 面が6つかー他は? | C9 目の合計が2 1 |
| T8 目の合計が2 1になるんだ | C10 6つの面の面積が同じ |
| T9 なるほどー。算数の言葉で言うと | C11 6つの面の面積が等しい C12 同じです |
| T10 他には? | C13 四角い C14 ちがう形もあるよ |
| T11 さいころには形もあるもあるね | |
| T12 あとは? | C15 立方体 |
| T13 立方体? 難しいこと知っているね | C16 立方体? C17 立方体って次の勉強? |
| T14 ここまで出してもらったんだけど | C18 1が赤い |
| T15 えっ まだある? | C19 1~6までの数字がある |

| | |
|---|--|
| T16 今から実際にさいころを渡します。 二人で一つ渡すので、振ってみたり、観察してみたりしてください。 | C20 二人で一つなんだ |
| T17 二人で順番に振ってみたりして見て | C21 1がでた C22 4がでた C23 また、1がでた C24 1の次に4が出て・・・ |
| T18 じゃあ一旦振るの止めて、やってみて気付いたことある? | C25 1しかでない C26 こことここを足したら7だし C27 上と下を足したら7で右と左を足したら7 |
| T19 なに? | C28 うん |
| T20 ここ? | C29 1~6までの数字がある  |
| T21 ふーん | |
| T22 ○○さんも同じ? | C30 先生、場所は決まっているんだよね |
| T23 さいころの目というんだけど。数は・・・ | C31 みんなのを見回す。 |
| T24 確かに1~6までの数字があるんだけど、目の位置にきまりはあるのか? って思うんだけど、確かめられないかな? | C32 先生、みんな正方形なんだよね。正方形なら確かめれないかな? |
| T25 確かめたいんだけど | C33 だから自分でさいころを作るんだよ |
| T26 なるほど、確かめるには? | C33 定規で測る |
| T27 なるほど | C34 間違えた、数える |
| T28 数の配置とか確かめるためにはどういう方法がある? | C35 ならず、並べる |
| T29 定規? | C36 グラフ |
| T30 数えたら? | |
| T31 並べて表すには、どんなやり方がある? 表と裏などを分かりやすく表すには? | |
| T32 グラフ? | |

| | |
|--------------------------------------|--|
| T33 表にすると分かりやすいよね (表を配布する) | C37 違う。表だよ。 |
| T34 表の書き方なんだけど、表の数が1の時、裏は？ | C38 6 |
| T35 このように入れてみてください。全部やってみてください。 | C39 先生、これすごい C40 先生、これ順番になっている |
| T36 じゃあ、表に入れていくとどうなる？ | C41 2 |
| T37 下は？ | C42 5 |
| T38 次は？ | C43 3と4 C44 4と3 C45 5と2 |
| T39 最後は？ | C46 6と1 |
| T40 この表をもとにどうする？ | |
| T41 作るにはきまりが分からなければ作れない？ | C47 さいころのきまりを見つけよう C48 きまり？ C49 足したり、引いたり・・・ C50 なんできまりを見つけなければいけないの？ |
| T42 じゃあ全部の数字が1でいい？たくさんさいころがあっても？ | C51 だってさいころってただ振ればいいんじゃない？ |
| T43 なるほど | C52 例えば、1の裏が6じゃなくても4とでもいい |
| T44 そうだね。 | C53 でも、きまりが分ければ、同じものができるんじゃない |
| T45 きまりを見つけるため、表を完成させるには3段目をどうすればいい？ | C54 合計。足した数 |
| T46 なるほど。足した数にしてみるとどういう表になる？ | C55 できた C56 簡単。 C57 チャラいぜ |
| T47 どうなった？ | |

B 1

| | |
|---|---|
| | C58 7 C59 7 C60 7 C61 7 C62 何で、全部7ってきまりがついているんですか？ C63 表と裏を足すと7になるんだよ C64 なるほどー |
| T48 なるほど、そこなんだよ ではここできまりを見つけてみてください。 自分の言葉で表してみよう。気がついたことでいいよ | |
| 2 表から関係性を式に表わし、式がどの場合も成り立つか表と照らし合わせる。 | |
| (手が止まっている児童に対して) T49 じゃあもしさいころを投げて1が出たとすると下は？ T50 なんでわかるの？ | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;">B 1</div> |
| T51 なるほど、他は？ | C65 6 C66 1の裏は6になる。足した数が必ず7になるから、1の裏は、6になる |
| T52 あっ式ができたね。式にすると | C67 「表」たす「裏」は、必ず7になる。 |
| T53 じゃあ数が分からない場合どうする？ | C68 「表」+「裏」=7 C69 同じ |
| T54 もう一方は？ | C70 四角 C71 四角にした |
| T55 四角だと見にくいから三角にするけど、三角と丸にした場合、式に表せそう？ | C72 ○ |
| T56 じゃあ書いてみて | C73 できる |
| T57 では、表が丸で裏が三角だった場合、式に表すと？ | C74 これ見ればいいんだよ |
| T58 できた？ | C75 $O + \Delta = 7$ C76 同じです。 C77 先生、 $7 - \Delta = O$ も言えるよ |
| T59 どういうこと？ | |

B 2

| | | |
|---|---|------------|
| | C78 ここでいうと (前に出てくる) | B 2 |
| | C79 $7 - 6 = 1$ になるから、 $7 - \Delta = \bigcirc$ も言える | |
| T60 なるほど、では、この式が本当か確かめよう | C80 まず、 $7 - 6 = 1$ | B 3 |
| T61 もっと簡単に言うと? | C81 $1 + 6 = 7$ | |
| T62 ここは? | C82 $2 + 5 = 7$ C83 $3 + 4 = 7$ C84 $4 + 3 = 7$ C85 $5 + 2 = 7$ C86 $6 + 1 = 7$ | |
| T63 きまりがでたよね? きまりが分かるとどんなことが分かるの? | C87 作り方が楽になる | |
| T64 なんで楽になるの? | C88 きまりを知ったから C89 つけたしです、位置のきまりが分かるから | |
| T65 位置が分かるとは? | C90 例えば、片方が1なら、もう片方は6になるそれをどんどん、1と6、2と5、3と4と書いていけばいい | |
| T66 位置を決めるにはどうすればいいの? | C91 表の数、もしくは、裏の数が分かればいい。 C92 ああ、九九といっしょだ | |
| T67 ということ? | C93 例えば、9の段で十の位と一の位で九九は81で八九は72だから、十の位が1減ると一の位が1上がる。 | |
| T68 もう一個気付くことない? 実は、今回作りたさいころは、これなんだけど (正二十面体を見せる) | C94 おおっ | |
| 3 見つけたきまりを使って、他の場合でも関係性を見つけ、式にできるか考える。 | | |
| T69 これですさいころ作りたさいころだけど作れる? | C95 作れる | |
| T70 作れる? | C96 作れる | |
| T71 作るために必要なことは? | C97 きまり | |
| T72 きまり無くても大丈夫? | | |

| | | |
|---|---|----------|
| T73 どうして? 全部1にする? | C98 大丈夫 | |
| | C99 それは、・・・ | |
| | C100 裏が1だとしたら、19とか | |
| | C101 でもさ、・・・ | |
| T74 どうする? 1の裏が・・・ | C102 20 C103 20 C104 あっそうか | |
| T75 本当に? | C105 本当。 C106 だって、1から6で7なんだから C107 21じゃない C108 一番大きい数には一番小さな数にする | |
| T76 もう一回言ってみて | C109 一番大きい数の裏には、一番小さな数にする | |
| T77 本当か書き出してみよう。一番大きい数の20の裏には、 | C110 1 | |
| T78 19には、 | C111 2 | |
| T79 全部書き出してみよう | C112 全部? | |
| T80 そんな大変? | C113 10個でいいよ | |
| T81 確かめようか | C114 1と20 | |
| T82 2と | C115 19 | C |
| T83 3と | C116 18 | |
| T84 じゃあきまりは? \bigcirc と Δ にすると | C117 $\bigcirc + \Delta = 21$ C118 先生、これ二十面体なんですよ? | |
| T85 うん? | C119 二十面体+1が合計の数になる | |
| T86 いいことに気がついたね、ということ? | C120 6面体だと合計は7、二十面体だと21になる | |
| T87 これも? | C121 きまり | |
| T88 どんな? | C122 $\bigcirc\bigcirc$ 面体+1が合計になる | |
| T89 学習感想を書きましょう | | |

【本時の考察】

【A：導入部分】

教科書に載っている時計ではなく、普段子どもも触れているさいころを教材として扱った。和が一定であり、合計の数字も子どもたちが知っているものを扱ったことにより、普段算数を苦手に思っている子にも学習に入りやすい導入にした。さらに、今まで知っている事柄の中にもきまりがあるか改めて検証していくようにした。検証する方法としては、表に表すことで、関係性に気がつきやすいようにした。

子どもたちの発言を見ると C1～C29 までは、今までの知識や実際の観察からの発言であるが、T24 確かに1～6までの数字があるんだけど、目の位置にきまりはあるのか？って思うんだけど、確かめられないかな？という問いかけによって算数の課題となった。

その後、解決の方法として表表してみるうちに

T35 このように入れてみてください。全部やってみてください。

C39 先生、これすごーい

C40 先生、これ順番になっている

この子どもたちの発言を見ると普段知っていたことが、算数の課題になっているように思える。さらには、表に表す「よさ」について気がつきがみられた。

【B1：問題設定】

表に表したことで、数の関係性に目を向ける児童も出てきた。C49「足したり、引いたり・・・」と自然にきまりを見つけようとする子どもも出てきた。今回、算数の苦手な子どもも考えられるように表の「表の数」「裏の数」「合計」まで一緒に確認したが、丁寧に扱すぎたため、きまりをどう表現してよいか手の停まってしまう子どもがいた。また、きまりを見つけるよさについても、

C53でも、きまりがわかれば、同じものができるとは思えない

という発言を取り上げ、きまりを見つける必要感をより深める必要があった。

【B2：式に表す場面】

C64 「表」+「裏」=7という見つけた関係性を式に表した後で、「○」と「△」を使って式にするところでは、さいころという数が分かり切っているものを扱ったせいで、「○」と「△」を使って表す必要性に迫り切れなかった。さらには、式の変形を行った。C77 先生、 $7 - \Delta = \bigcirc$ も言えるよ の発言を掘り下げること、「○」と「△」を使って表すよさに迫れたのではと考える。

【B3：式に表したものを表を用いて検証する場面】

今回の学習では、表 → 言葉の式 → 式 → 表 と子どもたちが表から見つけたきまりを言葉の式に表し、式化して、検証を行い、表に変えることを意図していたが、この 表 → 言葉の式 → 式 → 表 に沿っていたが、もう少し視覚的に検証しやすい板書にすべきだった。とくに、式 → 表の場面で、表の下に書き込んでしまったが、

| | | | | |
|-----|---|-----|---|---|
| 表の数 | + | 裏の数 | = | 7 |
| 1 | + | 6 | = | 7 |
| 2 | + | 5 | = | 7 |
| 3 | + | 4 | = | 7 |
| 4 | + | 3 | = | 7 |
| 5 | + | 2 | = | 7 |
| 6 | + | 1 | = | 7 |

$$\bigcirc + \Delta = 7$$

としっかりと整理することで、よりきまりを式に表すよさを子どもに気付かせることができたのではと感じた。

きまりについて検証する際に、C92、93の九九のとの関連について子どもは、9の段の積の位の数に注目したが、同じく九九のきまりなども取り上げてよかったのではないかと考える。

【C：他の場面でもきまりを見つけられるか考える場面】

普通のさいころの数の検証を行った後、正二十面体のさいころの場合には、どうなるか既習をふまえて他の場面でもきまりを見つけられるかという課題を設定した。子どもたちは、C122で「○○面体+1が合計になる。」というきまりを発見していたが、普通のさいころを扱った場面で、C8 「面が1、2、3、4、・・・6 6つある」と C19 「1～6までの数字がある」という発言を関連付けて、関係性をとらえさせておけば、より早く、正二十面体の目の合計は21だから、「20」と「1」という用の発言が引き出せたのではと考える。

授業記録を見返してみるとC106 「だって、1から6で7なんだから」やさらには、その前のC100 「裏が1だとしたら、19とか」などのつぶやきを拾い、共有していくことで学びを深めていくことが大切であると思った。

【全体を振り返って】

先にも挙げたが、さいころを教材としたことで導入の場面は、速やかに行えたと感じる。しかしながら、数が簡単であることで答えが簡単に出てしまうことによるどんな子どもでも参加できる授業にはなったが、きまりを式にしてそれを検証するという必要性はあまり深めることができなかった。しかしながら、第一時でこのさいころを扱ったことで、単元の学習としては、あまり苦手意識をもたずに行えたと感じる。表から関係性を見つけていくということに関しては、表の縦の関係をとらえたり、横の関係をとらえたりするためにもこの第一時から表に書きこんでいくことが大切であると感じた。

授業としては、授業記録を見返すと授業内容を深めることのできる様々なつぶやきが見られたのでそれらのつぶやきを拾い深めていけるような教材研究が必要だと感じた。

【子どもの振り返り】

〈学習感想〉
 わたしは、さいころについて知ろうと思ったことがありませんでした。ですが知れば知るほど、と知りたくなりました。

かんそう
そりをかにかえのにていへん
たけが表と裏でかんかんがうこと

<学習感想>
さいころの目がきま、ているの
におびるきました。

学習感想
6面体が20面体はあわせて1大き
くなるとわかりました。これから
がんばりたいです。

<学習感想>
今日は正二十面体のさいころについてべんぎょうをしました。
さいころについての学習です。
たてやよこをたしさんするかんがひ「 \square 」というこゝがわかりまし
た。これからはかんがひていきたいです。

<かくし。うかんそう>
面の数かいはおきてのめんすうら
のめんと同じことかわか、た

<学習かんそう>
わたしは、今日はわかり
ました。たのしか、たです。
次のべんぎょうにいかし
たいです。———す。
おわりました。

学習かんそう
わたしはサイコロを作ろうをや
てたのしか、たは、前4Aでや
ったときとはかゝり数をやって分が
らないときはとなりのまらきさん
にきいてたけれど今日は、きく
に山本さんといっしょにおしえる
ことができました。こんどもかんば
りたいたいです。

<学習感想>
見ると、つくるのがむずかしく
思えるが、きまりが分ると、い
かしく作るのはかんたんだ。

〈学習かんそう〉
 物にはいろいろなきまりがあり、
 それをすべて集めて始めて物に
 なるということをしりました。こ
 れからはいろいろなきまりを深
 めていきたいです。

〈学習感想〉
 この学習で、わたしはきまりを作
 る問題があるのだと気づきました。
 さいころでも、二十面体でも、表
 を使ったりして、きまりを見つけ、
 さいころや、二十面体を作りた
 いです。

〈学習感想〉
 ぼくは、今日表の数とうらの数の
 事を良く知ることができました。
 この事を勉強にいかしたいです。

〈学習感想〉
 わたしは、さいころを作ろうで、
 さいころのきまりや、なぜたしが
 んをすると7なのか分かりまし
 た。とてもわかりやすかったです。

〈学習感想〉
 ぼくは、きまりがわからな
 いことが分るとわかりました。
 十面体ならグループで表しうか
 てもなるようにすればいいのは
 作れるよすがが本がってびっくり
 した。

〈学習感想〉
 わたしは、今日、このべんきょ
 うをして、なぜ、そんなきまりが
 あるのか、わからなかつたけど
 いろいろなことが、わかってうれ
 しかったです。

〈学習感想〉
 ぼくは、たとえば「20面体だ」と
 言われても、それが何なのかは、
 友としかたのしなかった。でも、
 うけいだとおもいました。

学習感想
 さいころのきまりがよく
 わかった。

